

NEWS RELEASE

2016年9月7日

報道関係各位

「染司 よしおか」吉岡幸雄氏製作による ロビー装飾『供花神饌』

ANAクラウンプラザホテル京都は、1階ロビーにて2016年9月1日(木)より、10月初旬(予定)まで、「染司 よしおか」五代目当主・吉岡幸雄氏製作による『供花神饌』の展示を行います。石清水八幡宮では、貞観5年(863)より、「生きとし生けるもの」の平安と幸福を願う仏教的要素の強い祭儀として「石清水放生会」が始められ、後に勅祭として催行され、現在では「石清水祭」と改称されて、公祭としての神事と位置づけられ現在に及んでいます。祭典において、神霊に対して献饌や供花・奉幣・牽馬などが行われます。植物で染められた和紙による紅葉、杜若、桜、橘、牡丹、松、竹、梅、菊、南天、椿、水仙の十二種の造り花が神前に捧げられます。造り花を捧げる事は、東大寺や薬師寺の修二会での行事と重なり、仏教的要素が感じられます。1998年より「染司よしおか」で和紙を染め、造り花も行っています。

石清水祭は、かつては旧暦の8月15日に行われておりましたが、明治17年(1884年)よりは新暦の9月15日に行われています。賀茂祭(葵祭)・春日祭とともに日本三大勅祭の一つとされます。

本祭の神饌は石清水八幡宮に古来伝承されてきた特殊神饌で、有名な供花は、四季を表した和紙造りの神饌(毎年新調される)で、古来は皇室からの特別なお供えでした。この供花神饌に飾られる鳥、虫、動物の細やかな造りも、ごゆっくりご覧いただけます。



『供花神饌』



『供花神饌』全体

【参考】

■「染司 よしおか」吉岡幸雄氏プロフィール

昭和21年、京都府生まれ。染色史家。

早稲田大学卒業後、家業の「染司よしおか」五代目当主を継ぎ、伝統的な植物染による日本の色を国内外に向け紹介している。

平成22年、第58回菊池寛賞受賞。

: 本件に関するお問い合わせ先 :

ANAクラウンプラザホテル京都 企画課 小倉・木下
TEL : 075-252-8567 (直通) FAX : 075-252-8577 E-mail: marketing@anacpkyoto.com